

イングリッシュ？

中島八十一

世紀の二十一世紀に變はりたる頃霜月にギリシャはテッサロニキを訪ねたり。ローマよりテッサロニキのアリタリア航空客室乗務員の余に向ひて英語にて問ふにかつて非常時の對應ビデオ見たりや、と。余肯首したれば乗務員さあればこれにて終了と告げて終はりぬ。余もこれ以上を求め得ず。かかるイタリア人にかかる日本人あり。

目的地の空港にて行李の到着待たれば異なるレーんにてナリタ、ナリタと叫ぶ聲あり。余の行李のみひとつ別に著きたるものなりや。そも余の名はナリタにあらず。空港よりタクシーにてホテルに向かふ。運轉手にホテルの名のみ告げ試みに今日は寒しやと英語にて尋ねたり。いくばくかの間置きて自らはドイツに出稼ぎに行きたればドイツ語なれば分かると答へたり。運轉手の述べたることにドイツ語にて繼ぎたり。余學校にて二年間ドイツ語學びたるに實用には至らず、と。そも余のドイツ語をドイツ語とは思はず、奇怪なる宇宙人の言語ならむと訝しみたりけむ。その後の余の沈黙こそ運轉手への回答ならめ。

一九七〇年代の北歐にては若者言ふに年寄りはドイツ語話せど英語は如何、と。同時期のフランスにては英語を使用し得ざる研究者數多見たり。法律にてフランス語を併記せざる英語表現のみのチケットその他の販賣は禁じられ居り。日本にありては萬國郵便聯合の公用語フランス語なれば郵便局の外國語表現はすべてフランス語にて、いつの間にか英語のみになりたること氣付ける者少なし。再び二十一世紀初め。舊東獨のライプチヒにて空港より乗りたるタクシーの運轉手のたゞたゞしき英語にて、出立はいづれの時ならむ。出立にも我が車使はなむと請ふ。その後は獨りごとのんとく英語話すを得ずば仕事にならず。これまで習ふ機會なればせむかたなきなり、と。

ギリシャに戻らむ。市中にては悉く英語の通じざれば、身振り手振りの毎日にこはこれにて愉快なり。英語を多少心得る藥局にてハーブティを量り賣りにて求むれば小袋にはつか入れたるばかりにおよそ百圓。いぢゅう市にてハーブティなる言葉そのものの通じぬ中をこれをと指差し百圓相當の紙幣を出いだせば一kg餘りの大袋手渡さる。隣り合ふ出店の青果賣りなれば無花果を求めたり。並み居る品物より無花果選びて指差すも賣り子の兄ちゃんにはいづくを指せるか分からず。これか、これかと一品ずつ余に確認求む。余も答ふるに right, right へ指示す。やをら賣り子が余を顧みて右腕を指すに、right ? left ? と尋ぬ。すかさず余 right と伝ふれば兄ちゃん返す。You are right !

(令和七年七月二十日受附)